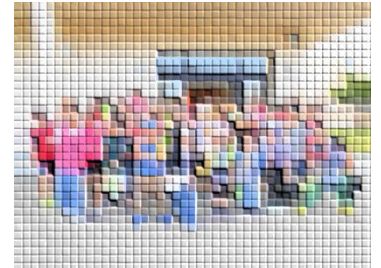


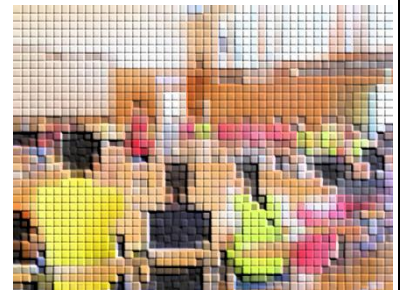


函館を満喫！修学旅行に行きました

6月27日（木）～28日（金）の2日間、6年生14名は函館市に行ってきました。修学旅行のめあては、「直接見たり聞いたりして、函館の歴史や文化を学ぼう」「集団での行動の仕方を身につけ、自分たちで判断し責任を持って行動しよう」「協力して行動し、友達との仲を深めよう」「弥生小の6年生と地域の魅力を伝えあい、交流を深めよう」でした。事前の学習で見学場所を決めたり、弥生小学校との交流に向けて八幡平市を紹介する準備を進めたりしてきました。当日は、お互いの市について伝えました。自然を生かした観光や見どころ、食など八幡平市ならではのものを紹介しました。また、自己紹介タイムやゲームを通して弥生小学校の6年生との交流を深めました。班ごとに公会堂や旧イギリス領事館、五稜郭などで異国情緒あふれる建物や函館の歴史について見聞を深めました。天候に恵まれ函館山の夜景も満喫しました。2日目には、函館朝市や函館みらい館を見学しました。特に朝市では、お店の方々にたくさんのことを教えていただきました。多くの人とかかわることの大切さを感じることができた貴重な2日間となりました。



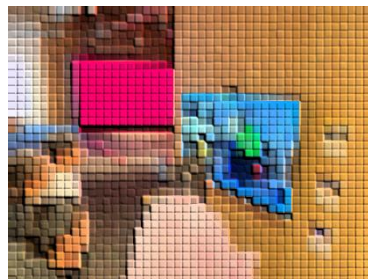
【弥生小学校でできた仲間と】



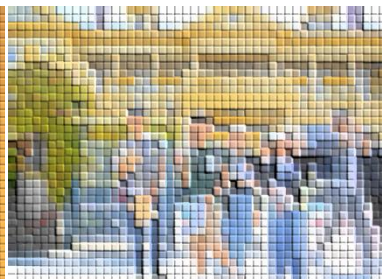
【交流の様子】



【朝市にて】



【函館みらい館にて】



【旧函館区公会堂にて】



相撲フェスティバルに向けて 土俵完成！

6月29日（土）保護者の皆様のご協力により土俵づくりを行いました。児童4名も参加し土俵づくりの手伝いをしました。お陰様で立派な土俵が出来上がり、7月12日（金）の相撲フェスティバルの土俵が整いました。休日にもかかわらずご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。7月2日（火）には、厚生部会を開催しました。フェスティバル当日に向けた具体的な打ち合わせをしていただきました。今後は学校運営協議会長様、PTA会長様のご協力のもと、体育の学習を通して相撲に親しむ学習を行います。保護者の皆様には、当日の係や会場準備などご協力をいただくこともございます。ご面倒をおかけいたしますが、なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。



【土俵づくりありがとうございました】

読書がもたらす効果を考える

ノーゲーム週間が実施されました。この機会に親子での読書に取り組まれたご家庭も多いことと思います。

読書はなぜ必要なのでしょう？子どもの成長には「経験」が不可欠です。経験が少ないと、未経験のことを想像したり対処したりする力は育ちにくくなります。実体験に勝る経験はありませんが、生きてきた年数が少ない子どもは実体験が少なくて当たり前です。その実体験では間に合わない経験不足を、読書を通じた疑似体験が補ってくれます。読書をする、書いてある言葉や登場人物の使うセリフや行動、文脈から正しく情報を読み取り状況把握をすることが求められます。そうやって文字を読むことは手間も時間もかかりますが、頭はフル回転します。そして自分の頭の中で本に描かれた情景を想像しながら読み進めていくことは、実際に実体験するのと同じぐらい印象にも残りやすいのです。結果、映像よりも断然読書のほうが実体験に近い感覚を得ることができます。今の時代、経験を補うための情報入手手段として、テレビやネット動画などの映像もあります。しかし映像で得る情報は、インパクトが強いので瞬間的には印象に残りますが、「眺めている」だけで、実はあまり「頭を使っていない」ということになりがちです。ただ、ゲームが大好きな今の子どもたちを読書に導くのは本当に至難の業です。そこで保護の皆様ができること、それは、「子どものロールモデルになる」ことです。子どもに読書をさせたいと思えば、親が読書を楽しんでいる姿を見せることが一番の近道なのではないでしょうか。さらに、国語好きとか語彙が豊富な子どもは、本を読むときに「引っかけりながら読む」のだそうです。例えば「主人公は、何で今こんなことを言ったのだろう？」とか「この言葉の意味は、何だろう？」といった具合に読み方が全然違うのです。では、引っかけりながら読めるようにするには、どうすればよいのでしょうか。保護者の方もその本を読み、子どもと感想を話し合うのが最も効果的な方法です。このように大人が子どもとかかわる読書をする、考える読書につながるのだと思います。

今の時代、知識を得ることは簡単になりました。知識を得る手段としては、もはや読書は非効率な存在かもしれません。しかし、知識は「経験」になってはじめて身に付きます。「読書」でたくさんの言葉に触れ、時間をかけながら作者の想いや話の流れを読み取ることで、知識が経験に変わっていくといいですね。



ある日の出来事から・・・

- 朝顔や人権の花のプランターと昇降口付近にはたくさんの植物があります。子ども達が水やりをしています。ある日の登校時のことです。随分とたくさんのプランターに水をかけている子がいました。訳を尋ねてみると「雨が降らないから友達の分にもかけています。」とのこと。確かにぐったりしている葉も見受けられます。よく見て誰かのために自分の手を使ってくれている一コマに心が温くなりました。
- 修学旅行函館山での一コマです。突然「校長先生。聞いてください！さっき、知らない人に声をかけて記念写真を撮ってもらいました。」と子ども達が声をかけてきました。その写真を見せてもらいながらその時のことを詳しく聞いてみました。なんと！外国の方に声をかけ、英語で頼んだら通じたというのです。これからの時代を生きていく子ども達には、あらゆる方々とのコミュニケーションが必要だと改めて感じた瞬間でした。子ども達のコミュニケーションスキルは、弥生小学校や函館朝市でも存分に発揮され、成長した子ども達の姿を心から嬉しく思った瞬間でした。



【函館山の夜景】